

北の森林 国有林



北海道森林管理局



かがやく夏の洞爺湖畔・滝之上キャンプ場
(関連記事・7ページ)



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林



スポーツ&森づくりで自然にふれあう

北海道森林スポーツ フェスタ2008 in 定山溪

この大会はスポーツと森づくりを通じて自然とふれ合うことを目的に平成十年から開かれているものです。

開会式では、中西実行委員長の開会宣言に続き、この森林マラソンの提唱者である今井通子氏（写真①）、

七月二十日（日）に札幌市南区の定山溪国有林をメインフィールドとして、「北海道森林スポーツフェスタ二〇〇八in定山溪 第十一回大会」が、同フェスタ実行委員会の主催で約千二百名の参加を得て開催されました。



① 森林に集まりスポーツをするとともに、木を植え森を育てましょう！

また、マウンテンバイクツーリングや森林浴ウォークのほか、環境保全プログラムでは「水源の森づくり体験」として東三郎氏（北海道大学名誉教授／森林空

間研究所主宰）の指導によるカミネツコンを使った苗木づくり（写真③）、「電気バスで行く豊平峡ダムエコツアア」が行われました。

大会メイン行事である森林マラソンは、スターターを安樂北海道森林管理局計画部長（写真②）が務め、十六キロメートルと五キロメートルの二コースを、参加選手は号砲とともに元気よくスタートし、定山溪の森を駆け抜けました。



② みなさん準備はいいですか？

最後には、お楽しみ抽選会もあり、参加者のみなさんは、思う存分森林とふれあいながら、初夏の休日を楽しんでいました。

（指導普及課）

間研究所主宰）の指導によるカミネツコンを使った苗木づくり（写真③）、「電気バスで行く豊平峡ダムエコツアア」が行われました。



③ カミネツコンを使った苗木づくり



カルチャーナイト2008

北海道森林管理局では七月二十二日(火)～二十五日(金)の四日間、ウッドデーホールにおいて「北海道の木の写真パネル展」を開催しました。最終日の二十五日は、カルチャーナイト二〇〇八(同実行委員会主催)への参加施設として夜十時までの一般開放を行いました。

北海道を夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむ行事で、各施設がもっている専門分野や特色を生かした文化プログラムをこの日のために提供するものです。ウッドデーホールでは大人から子どもまで北海道の木の写真を見たり、本物の木の実や幹に触れたりして楽しんでいただきました。

来場者のみなさんは、森林管理局の施設への興味もあり、ウッドデーホールの床や柱、壁が北海道産の木でできていることを説明すると、しきりに感心し天井を見上げたり床にさわったりしていました。

「普段から森林管理局の前を通りながら中はどうなっているのだろうと気になっていました。この機会に中に入れて良かったです」と話す方もおり、夜の開催もなかなか良いものだと感じたイベントとなりました。

(指導普及課)



G8北海道洞爺湖サミットが開催され、国内外から多くの観光客が訪れる洞爺湖畔の洞爺湖ビジターセンター(洞爺湖町洞爺湖温泉)に日本の環境施策を紹介するための「エコ・ギャラリー」が8月末まで開設されています。



北海道森林管理局では、北海道国有林における魅力ある自然や「美しい森林づくり」に向けた各種の取り組みを紹介するパネルを7月14日(月)～21日(月)までの8日間にわたって展示し、来場者のみなさんに生物多様性の保全、台風被害を受けた森林の復旧、レブンアツモリソウの保護増殖などについて理解を深めていただきました。

(企画課)

エコ・ギャラリー2008

洞爺湖で美しい森林づくりのPR

みんなで力あわせて森林づくり

【石狩署】 北海道日本ハムファイターズと石狩森林管理署では、七月十四日（月）、森林整備協定を締結しました。



これは、同球団が展開する「ファイターズ・エコプロジェクト」の一環として、平成十六年の台風十八号で甚大な倒木被害を受けた支笏湖周辺国有林の一部、十八・五ヶ所（写真）で植林活動を進めるものです。

ファイターズと森林整備協定
支笏湖の国有林で

B☆Bの森づくり
スタート!!

SINCE 2008
FIGHTERS
ECO PROJECT

©2005 H.N.F.

この森を球団のマスコットキャラクター「B☆Bの森」と名付け、球団はもちろん、ファンのみなさん、地域のみなさんと力を合わせ、美しい北海道の自然の再生の一助となることを願ってこのプロジェクトをし、やがては、この「B☆Bの森」が潤いある緑豊かな森になることを目指しています。

なお、当署ではこの活動に国有林のフィールドを提供するとともに、森林整備に関する技術の指導などで協力していくことにしています。

この森を球団のマスコットキャラクター「B☆Bの森」と名付け、球団はもちろん、ファンのみなさん、地域のみなさんと力を合わせ、美しい北海道の自然の再生の一助となることを願ってこのプロジェクトをし、やがては、この「B☆Bの森」が潤いある緑豊かな森になることを目指しています。



【石狩署】七月十一日（金）、当別町と石狩森林管理署では、森林整備協定を締結しました。

これは同町が進める「農地・水・環境保全向上対策」（平成十九年～二十三年度）実施に当たり、西部地区市街地周辺等の国有防風保安林（写真）のフィールド提供要請を受けたもので、この期間中に八十四ヶ所の森林整備を進めるとともに、

美しい森林づくりと美しい町づくりがマツキナー

当別町と森林整備協定



損木の整理なども行う計画です。

当署としても同町が実施している「美しい町づくり」と「町民の皆さんと行政の協働によるまちづくり」への貢献、また将来的には、「国有防風保安林管理協定」締結につながっていくものと期待しています。

この取り組みを契機とし、同町との連携を更に図り「地域に貢献する国有林」を実践していく考えです。（杉村 流域管理調整官）

林地保全に有効

低コスト作業路を普及促進

厚沢部町で
現地検討会



【檜山署】七月八日（火）、函館地方森林整備事業協議会、北海道森林管理局函館事務所及び檜山森林管理署共催で「低コスト作業路作設に係わる現地検討会」を実施しました。

これは緊急の課題である低コスト作業路を使用した高性能林業機械等による効率的な作業システムの構築と、急峻な地形

が多い函館地区においてこれらを広く普及させるために行われたものです。当日は、五十名の参加者があり、午前中は厚



沢部町の館地域振興センターにおいて、林野庁森林技術総合研修所林業機械化センター（群馬県沼田市）での「低コスト作業路企画者養成研修」を修了した函館事務所職員を講師にプロジェクトを活用し、路線の選定方法や表土を使った盛土工法の説明を行いました。

午後からは、同町内の焼木尻国有林に移動し、同林業機械化センターでの「低コスト作業路技術者養成研修」を修了した函館地方森



林整備事業協議会会員の（株）細畑林業の中島氏が講師となり、現地において「表土ブロック積工法」による作業路作設の実演指導があり、その後同協議会会員のオペレーターによる体験作業を行いました。

引き続き行われた検討では、林地保全という観点から大変有効な工法であるという共通認識の下、「従来の集材路作設に比べ、導入初期に経費増となる」、



「収穫調査時点の支障木選定に高度な技術が必要」、
「恒久使用作業路への保安林の指定施業要件（植栽義務）の整理」など、現場へ普及させるための課題が上げられました。

今回の検討会は、活発な意見交換等が行われた大変有意義なものとなり、今後の普及に向けた取り組みが期待されています。
（押野 流域管理調整官）



署長 雑感

窓から臨む羊蹄山

変わらぬ風景と移ろう光景



後志森林管理署
署長

田之畑 忠 年

倶知安町にある後志森林管理署の事務室からは羊蹄山（一八九八メートル）が望めます。

この山の登山コースには、真狩、比羅夫、京極、喜茂別の四つがあり、それぞれ登りに五時間、下りに四時間程度で余裕を持って登山できます。

人気が高いのは、真狩、比羅夫コースで、これは登山口周辺の施設充実や交通の便の良さによるものかと思えます。また、登山者には百名山制覇を目標にしている、年配の皆さんが多いようです。

倶知安といえばスキー。羊蹄山での春山スキーの愛好者は署内にもいますが、マニアの中には厳冬期



ヒラフスキー場から羊蹄山を望む

にテレマークスキーで楽しむ方もいるそうです。ゲレンデスキーでは、比羅夫地区にヒラフスキー場があります。

ここは冬の晴れた日には、羊蹄山の眺めも良く、雪質も素晴らしいことから、国内の他のスキー場が来場者の減少に苦勞する中、このスキー

場は、オーストラリア人を中心とする海外からのスキー客が増加しており、リフトやゴンドラに乗ると、外国人と同乗することもしばしばです。

一方、町内では近年外国資本による「コンドミニアム」と呼ばれる賃貸型のリゾートマンション

ヨンの建設・購入が進み、町では将来、固定資産税を徴収できなくなることを心配し、それぞれに日本人の保証人を付けているということを聞きました。

ヒラフ地区が外国人に人気があるのは、彼らは一週間から一〇日ほど滞在するため、同じホテルで毎日食事するというのは好まず、居酒屋、コンビニ、各種飲食店があり、少し足を伸ばせば倶知安の市街地でエンジョイできるという立地条件の良さからだそうです。

このように様変わりしているスキー場ですが、羊蹄山は昔のままです。機会がありましたらぜひ登ってみてはいかがでしょうか。

レク 森 紹 介



国有林には、その自然環境を活かし、自治体等によって運営されるキャンプ場がたくさんあります。

このコーナーではその魅力の数々を紹介していきます。



輝く湖面と緑豊かな自然林

洞爺湖滝之上キャンプ場



洞爺湖と中島の織りなす景色を楽しめる湖畔のサイト

洞爺湖町と壮瞥町にまたがる洞爺湖には、いくつものキャンプ場がありますが、その中でも「隠れ家」的存在なのが、この「洞爺湖滝之上キャンプ場」です。

リゾート地でもあり高規格のキャンプ場が多い地域ですが、ここの施設はとてもシンプルで、場内に漂うどこか懐かしい風情も魅力の一つかもしれません。

湖畔側のサイトは湖面のすぐそばまでテントが張れる親水性の良さ、そして目の前に広がる青く輝く湖と中島の織りなす風景。また、緑豊かな自然林の中に広がる林間のサイトも、木立の中を流れる心地よい空気感と木漏れ日の下で「野営」の風情満点で、洞爺湖のキャンプはここでしかないとファンもいるそうです。

キャンプ場を訪れた7月下旬は、好天の下、キャンパーのみなさんは適度な間隔を取りながらテントを立て、プライベートサイト気分で湖の景色を眺めたり、穏やかな湖面でのカヌー、炭火でバーベキュー、ハンモックでお昼寝、また、キャンプ場をベースにポタリング(自転車での散歩)など、いろいろなスタイルで洞爺湖の夏を楽しんでいました。

近くには仲洞爺温泉、壮瞥温泉などがあり、湖畔でたっぷり遊んだ後の湯浴みも楽しむことができます。

晩夏のひとときを洞爺湖の畔^{ほとり}で過ごしてみませんか？



木陰で涼しい林間サイト



カヌーの似合うシチュエーション



水場は林間と湖畔の計2箇所



懐かしい風情のバンガロー

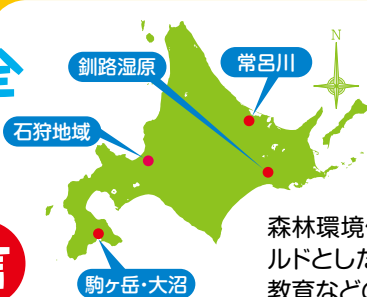


DATA

- 所在地 有珠郡壮瞥町字東湖畔
- 利用形態 草の生えた土のフリーサイト
一部車両乗り入れ可能
- 施設 水場・トイレ・バンガロー(4人用6棟)
- 料金 大人400円・小人200円 バンガロー3000円
- 開設期間 9月中旬まで
- 問い合わせ 壮瞥町高齢者事業団 0142-66-2548

森林環境保全 ふれあい センター

通 信



森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。



駒ヶ岳・大沼森林環境保全 ふれあいセンター



木々の生長を確かめながら下刈り作業 森林づくり塾2008・第3回講座

当日は大変蒸し暑い中で
の作業でしたが、塾生のみ
なさんは、春に植栽したミ
ズナラの生長を確かめなが
ら、〇・六三畝の区域を二
時間ほどかけ、ていねいに
刈り払ってまいりました。
(窪田 自然再生指導官)

七月六日(日)に第三回
講座を開催し、二十一名の
塾生のみなさんと七飯町カ
リマ国有林において植栽木
の生長を妨げる草本類を刈
り払う「下刈り」作業(写
真①)と植栽木を野生生物
の食害などから保護する
「ヘキサチューブ」の設置
作業(写真②)を行いました。

駒ヶ岳・大沼森林環境保
全ふれあいセンターでは、
森林ボランティア活動等の
リーダーの育成のための
「森林づくり塾」を年六回
のプログラムで実施してい
ます。



常呂川森林環境保全 ふれあいセンター

森の自然の素晴らしさ・不思議さに魅了

巨樹・巨木が茂る森林散策会

常呂川森林環境保全ふれ
あいセンターでは、森林と
の触れ合いを楽しみなが
ら、森林を愛する仲間の輪
を広げる森林ボランティア
団体「オホーツクの会」の
活動を支援しています。
七月六日(日)、同会に
よる「巨樹・巨木が茂る森
林散策会」が、北見市と網
走市にまたがる国有林「オ
ホーツクの森」で開催され、
当センターではサポートを
行いました。
当日は四十四名の参加者
が、同会事務局長の吉田昭
義さんらの案内で樹木、草
花、鳥などあらゆる生き物
が水や土壌と関わりながら
バランス良く、まるで森林
全体がひとつの生命体のよ
うに息づいている様子を観
察し、この森の自然の素晴
らしさや不思議さに魅了さ
れてまいりました。
(石橋 所長)

森林への理解を深めた夏のイベント

先生は勉強〜子どもたちは野外体験



鉦路湿原森林環境保全 ふれあいセンター

鉦路湿原森林環境保全ふれあいセンターでは理科教員の研修会と小学生の野外体験活動のサポートを行いました。

七月四日（金）、標茶町内の教職員十三名による理科部会の研修が、同町の雷別地区自然再生事業地で行われ、当センターでは、鉦路湿原自然再生協議会の取り組む雷別地区自然再生事業の概要や、市民参加の活動、森林環境教育支援活動について説明を行いました。



参加した先生方からは「雷別では針葉樹は植えないのか」、「シカ防護柵は雪が積つても効果が有るのか」等の質問がありました。また、自然再生の取り組みへ期待を寄せる声も聞かれ、今回の現地研修は、当センターの活動を知ってもらう良い機会となりました。

た。

七月六日（日）には、鉦路市子ども遊学館主催の野外体験イベントが標茶町内のパイロットフォレストで行われました。

当日は好天に恵まれる中、小学生の親子など十八名が参加しました。

午前中はドラム缶を使った簡易炭焼き機による炭焼き体験（写真①）と小さなブリキ缶を使った炭作り体験を行いました。

炭作りでは、カラマツ等の細い葉が原型のまま炭に焼けているのに驚きの声が上がりました。

午後からは山火事の消火道具を使って森の消防士体験（写真②）を行いました。

子どもたちは背負い式消火水のう「ジェットシューター」を水鉄砲のように使った的当て放水に興奮気味に楽しんでいました。

また樹木観察なども行い、森の中で緑を満喫した楽しい一日となりました。

（國井 自然再生指導官）



石狩地域森林環境保全 ふれあいセンター

石狩地域森林環境保全ふれあいセンターでは今年度から野幌森林公園の風倒被害再生植樹個所で市民参加の下刈り作業（写真①）に取り組んでおり、六月中旬から七月上旬にかけてのべ十日間実施しました。

下刈りは地味で重労働な作業ですが、意外にも多くの参加者が集まってくれました。

ここでの森づくり目標は「百年前の原始性が感じられる自然林」の再生。植栽木だけでなく自然に生えてきた稚樹も大事に育てるため、誤って刈り払わないようテープで目印を付けながら作業を進めました。（写真②）

下刈り作業は今後も続きますが、より多くの市民参加を得られるよう工夫していきたいと考えています。（堀川 自然再生指導官）

下刈りイベント10連発

重労働に多くの市民参加

治山最前線 えりも岬の国有林治山



持久力のある森林を育てる

山地の保全・災害復旧などの治山事業を現地で担う各地の治山事業所からのレポートを紹介します。



日高南部森林管理署
えりも治山事業所

- ①百人浜のクロマツ人工林
- ②強風から幼木を守る防風柵
- ③地域のみなさんによる植樹活動
- ④展望台に続く歩道から市街地を臨む



えりも町は、北海道の東南端に位置し日高山脈と太平洋に囲まれ、えりも岬や黄金道路など、日本で屈指の強風地ならではの美しい景観地がある漁業と観光の町です。

えりも岬の国有林四百二十一ヶ所は、かつて「えりも砂漠」と言われていたところで、地元の漁師と国が協力し五十五年の歳月をかけて取り戻した緑化造林地です。

環境やエコという言葉が知られていないころに始まり、現在では緑化事業の成功地として名が知られており、NHKのテレビ番組「プロジェクトX」にも紹介され、一昨年は天皇皇后両陛下が御視察されました。

えりも治山事業所では木々が育ちやすい土地を作るための排水工、太平洋から吹き付ける強風から幼木を守る防風柵の設置、苗木の植栽とその後の保育管理などを行っており、現在までにえりも岬の国有林面積

の九十四%の緑化を完了しています。

また、地域の皆さんとふれあう仕事も多く役場や地元の観光協会のみなさんと関わる機会が多くあります。

先日あるツアーに同行した際、こんな話を聞きました。「ここに住む人達は、えりもが全国的に有名だと思いついておられるところがない。他力本願ではリピーターは増やせない」これは緑化事業にも言えるのではと思います。

緑も人の手で守り育てつつ、同時に自然の力で回復できるように導く必要があります。

半世紀かけて取り戻された緑は事業地の七割がクロマツ林です。先人の努力を無駄にしないために、またいつの日かえりもの緑が自力で更新できるように、今後は本数調整伐・広葉樹化・シカの食害対策など積極的な事業を進めていかなければなりません。

えりもの「何も無い」時代は終わり、緑化事業地も立派な観光資源になっています。

私は今回の異動で初めて北海道の地を踏みましたが、道内に長年住んでいてもえりもに来たことがない人は多いと思います。

今後、えりも岬を訪れたみなさんが後ろの森林を振り返って、緑化事業の過去、現状を知り、森林の未来について考える機会が少しでも増えれば幸いです。

日高南部森林管理署 えりも治山事業所

- 幌泉郡えりも町字新浜247
- 電話 / 01466-2-3149

主任 安田 麻美



国有林が広がる奥尻島・利尻島・礼文島

北の島だより

離島の森林事務所に勤務し、島民のみなさんとともに森林を守り育てる森林官・主任たちから届いた話題を紹介します。



レブンアツモリソウは国内で礼文島だけに自生するラン科の植物で、「種の保存法」の国内希少野生動物種等に指定されています。

一九八〇年頃から盗掘が続き、一時期は絶滅が心配されました。しかし今年、残念ながら二件の盗掘事件が起こり、関係者一同ショックを隠されませんでした。まだまだ啓蒙活動の強化と監視の継続が必要であるとの思いを強くしました。

宗谷森林管理署では啓蒙活動の一環として、四月から礼文島の香深フェリーターミナルにおいて写真展を行っており、会場に設置された椅子に座りながらゆっくりと鑑賞することができます。野生のレブンアツモリソウの開花期は終わってしまいました。本写真展は九月末までを予定しており、

みんなで考え・守り・伝える

花の島 礼文島

礼文森林事務所

島に咲け 永久に

レブンアツモリ写真展

されるほどに数を減らしました。その後、各機関により保護増殖の調査研究や盗掘防止パトロールが行われ一定の成果を上げています。

今年で十回目となる礼文島環境フォーラムが環境NPO法人・礼文島自然情報センターの主催で開催され、島内外から六十名が参加しました。

観せて守る花の島

礼文島環境フォーラム

シーズンを問わずたくさんのお客様の方々の目を楽しませていきます。

置状況等を体感し、午後からは三課題の講演とグループディスカッションが行われました。

花を楽しむための歩道利用の背景には、人に優しい道の整備と植物の保護という相反する課題が浮かび上がることから、今年には自然歩道のワイズユース(賢い利用)について意見交換を行いました。

狭く利用の多い歩道の荒れが話題となり、「一方通行」、「二ルートを準備し隔年開放」、「何らかの規制を行う場合は観光客が減る可能性など礼文全体の話として考える必要がある」など、様々な立場からの意見が出されました。

多くの方の参加を得た事はそれだけ関心が集まっている証拠です。より魅力的な礼文を目指すために住民や観光業者、行政といった関係者がお互いじっくり話し合うことが大切なことと再確認しました。

(田島 礼文森林官)

みんなで楽しい森林教室

楽しい木工にチャレンジ!

遠軽小学校



何を作ろうかな～ まずはノコギリで部品づくり

自然休養林で楽しく勉強!

芭露小学校



さあ、森へ行って楽しく遊ぼう!

【網走西部署】7月8日(火)、遠軽町立遠軽小学校・同PTA「おやじの会」が主催する同町の学社融合事業の「工夫して作ろう～楽しい木工工作にチャレンジ」が同小で開催されました。

これは、親子のコミュニケーション、木工を通じ木に興味をもってもらい、各種道具の使い方を学ぶことなどを目的に毎年行われているもので、当署の職員と「まちの森林博士」が協力しています。

当日はいろいろな木々の枝、ツル、笹の茎、松ぼっくり、どんぐり等を材料に、親子共に夢中になりながら創作し、2時間ほどで個性豊かなすばらしい作品が沢山でき上がりました。

また、7月24日(木)には、湧別町立芭露ぼろろ小学校の3年から6年までの31名の子どもたちと同町の円山自然休養林をフィールドに森林教室を開催しました。

当日は当署の職員、「まちの森林博士」のみなさんを先生役に、水源の様子を観察したり、落ち葉などが重なって何年もかかってできあがる土壌の仕組みなどを学んだり、また、笹舟や笹笛を作って遊び、涼しくて、気持ちの良い森の中で夏の1日を過ごしました。

(辻 森林ふれあい係長)

【東大雪支署】7月4日(金)、士幌町立新田小学校の全校児童18名のみなさんと同小の学校林「ニッタの森」で子ども樹木博士認定会を開催しました。

当日は、葉っぱや樹皮に直接触れながら20種類の樹木の観察を行い、葉の形や毛の生え方、匂いや感触など識別のポイントを学んでから認定に臨み、正解数に応じた認定証を授与しました。

子どもたちは「葉っぱを触って木の種類が分かるのがすごい」、「同じマツでも葉の形が違うことにびっくりした」などと話し、新しい発見に興奮気味でした。

その後、葉を模したブローチ作りに挑戦し、個性豊かな作品を作り上げました。

楽しみながら樹木の特徴を学んだ有意義な1日になりました。

(赤坂 森林ふれあい係長)

子ども樹木博士に挑戦

士幌町立新田小



特徴をよく覚えてね!



この葉は何の木かな?

がんばって登った三頭山

幌加内中学校



元気に登頂記念写真！



自然解説に興味津々

【常呂川森林環境保全ふれあいセンター】6月26日（木）、網走支庁管内の新任教員のみなさんと林業体験と森林学習を網走市のオホーツクの森で行いました。

これは「地域の自然や文化に触れる体験などを通じて、教員としての視野を広げ、教育活動に役立てる」ことを目的とした初任者研修「地域研修」（自然観察基礎講座）として、網走教育局の依頼で毎年実施しているものです。

当日はまず、「生物多様性のある森林」、当センターが取り組む「自然再生モデル事業」、「森林環境教育の支援」などについての説明を行ってから「自然再生モデル林」に移動し、カミネツコンの作成、稚樹の山取りの方法、クマイ笹が覆い茂る藪で鎌と鋤を持っての地拵えと整地、シカ等被害防止ネットの設置などの林業体験を行いました。

午後からは「古の森」で自然観察を行い、クマガラやクリンソウなどの天然記念物や希少野生生物の生態、国有林における保護対策について説明を行いました。

参加した先生方からは「今回の研修を通じて森林の大切さや良さを感じ、生徒たちにも実際に体験させたり触れさせてあげたいと思った」と感想が寄せられました。

（栄 自然再生指導官）

【北空知支署】6月27日（金）、幌加内中学校の1年生のみなさん9名と北海道百名山の1つで、同町にある三頭山（標高1009㍎）での登山学習を行いました。

これは、同校が登山を通じ、お互いに協力する態度を育てる、困難に対して自ら立ち向かう気力や体力を養う、郷土のよさを見直し体験的に学ぶことなどを目的に毎年行っているもので、当支署ではガイドなどの協力を行っています。

当日は5合目からスタートし、道中は当支署の職員が案内役を務め、登山道脇の植物などの自然解説を行い、生徒のみなさんは周囲の自然に興味深そうに観察していました。

3時間弱で到着した山頂からは360度の大パノラマが広がり、幌加内町、朱鞠内湖等を眺めながら、達成感と喜びをみんなで分かち合いました。

郷土・幌加内町の自然とともに登山の楽しさ、厳しさを同時に体感した大変有意義な活動となりました。

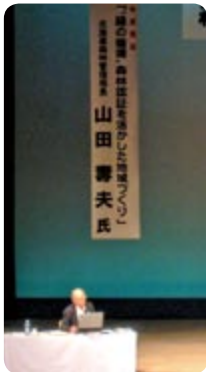
（永宮 業務課長）

学校の先生も森で勉強

新任教員のみなさん



みんなで考えよう 森林・水源・海・循環型社会



循環型社会への 取り組み発信 森から海の連環を考えるシンポ

【網走西部署】七月四日(金)、紋別市市民会館で、北海道洞爺湖サミットの開催にリンクした「森から海の連環を考えるシンポジウム」が「緑の循環森林認証で地域おこし協議会」主催、北海道、北

海道森林管理局などの後援で開催されました。

このシンポジウムは、京都大学が提唱する、「森・里・海連環学」をとおして地球の環境問題を考え、紋別市を中心とする「網走西部流域」における「森林認証取得」などの循環型社会の構築などへの取り組みを全国に発信していくことを目的に行われたものです。

当日は七百名もの来場者がある中、竹内典之京都大学名誉教授による「森・里・海連環学」の思想と北海道の森林、アウトドアライター 天野 礼子氏による「サケが森に教えること」と題した基調講演、山田北海道森林管理局長による『「緑の循環」森林認証を活かした地域づくり』の講話の後、森林認証の取り組みに関する協定調印式、『「森から海」の連環を考える！』と題したパネルディスカッションが行われました。

(安藤 流域管理調整官)



水源の森へのメッセージ

森と水環境を語るシンポ



【石狩署】七月十三日(日)、札幌市奥定山溪国有林において、NPO法人森林遊びサポートセンター主催のボランティアの森林づくりと「森と水環境を語る」シンポジウムが開催されました。

当日は、まずボランティアの森林づくりとして、北京師範大学珠海分校・国際学院両校日中交流団一行、北海道みず環境ユースWACCA、森林遊びサポートセンターの計四十六名で水源の森のクロエゾマツ植樹個所の下刈りを実施しました。

午後からはシンポジウムに移り、日中交流団との通訳を介した意見交換、「水源の森」へのメッセージの採択を通じ、「水源の森一〇〇選」奥定山溪国有林の果たしている役割を再認識し、この森林を次代に引き継ぐためのたゆまないアプローチの必要性を考える有意義な一日となりました。

(杉村 流域管理調整官)



各地からの便り



GSS人命救助で表彰される

【網走南部署】7月16日(水)、ウトロ森林事務所森林官とグリーンサポートスタッフ(GSS)4名が地元斜里警察署長より人命救助で表彰を受けました。

これは7月3日(木)、同森林官とGSS4名が羅臼岳の巡視中に、けがをした登山者がいるとの連絡を受け現地へ急行したところ、けがの様子から骨折が疑われたため応急処置し、ヘリコプターで被災者をつり上げられる場所まで簡易担架で1時間かけて搬送した救助活動に贈られたものです。

これからもこれを励みに活動を続けていきたいと考えています。



おけと人間ばん馬で大暴れ^^!

【網走中部署】7月6日(日)、おけと夏祭りのメインイベント「おけと人間ばん馬」で、当署の暴れ馬「ジャンコー」7人組が優勝賞金20万円の「7人引き」に挑み、祭りを盛り上げました。

これは林業で栄えた置戸町の姿を残すため、昭和52年から始まったもので、高さ1.2mの盛り土が2カ所ある全長80mのコースを、丸太を積んだバチといわれる鉄ざり(予選300kg、決勝ではなんと500kg!)を引く迫力満点のレースです。

「ジャンコー」は予選突端し決勝へ進み、上位入賞はかなわなかったものの、500kgの丸太を引き最後まで他のばん馬と勝負を争い、ゴール後は多くの観客の拍手を浴びました。



森・水・緑を肌で感じよう!

【檜山署】6月28日(土)、上ノ国町・内郷にある上ノ国ダムにおいて、同町教育委員会、函館土木現業所との共催で「水と緑に親しむ親子の集い」を開催しました。

当日は、子どもたちによるヒバの記念植樹、参加者全員による魚釣り体験などを行い、大人も子どもも自然を満喫した1日となりました。



J8サミットの若者たちが森林づくり

【胆振東部署】7月9日(水)、千歳市の支笏湖畔で開催されていたジュニア・エイトサミットに参加している各国の青少年のみなさんが支笏湖周辺国有林において、イオン環境財団の協力で、同財団・チアーズクラブの子どもたちと身振り手振りで交流しながらアカエゾマツなど200本の記念植樹を行いました。

「北見営林局」跡地に記念碑

【北見事務所】平成16年3月末をもって北海道森林管理局北見分局が廃止となり、昭和23年にこの地に「北見営林局」として建てられた庁舎も半世紀余りの歴史を閉じました。

この跡地には「コープ札幌きよみ店」がオープンしましたが、その一角には当時の面影をとどめる庭木などを残した「小公園」が作られ、地域住民の憩いの場となっています。

この度、生活協同組合コープさっぽろの計らいでこの場所の歴史を記した記念碑が建立されました。碑には「昭和23年、この地に北見営林局庁舎が建設され半世紀余り、北見地域の国有林野の管理経営の中核として重要な役割を果たされました。長い間、地域住民に親しまれた緑豊かな正面庭園の面影を、緑地広場として残しました。」と刻まれています。

この小公園が当時を偲ばれる方々はもとより、末永く地域の方々に愛される事を願っています。



国有林の四季体験ツアー

【根釧西部署】6月30日（月）、根釧西部森林管理署管内の景勝地・四季折々の見所を紹介し、参加者に写真撮影などを楽しんでもらう「国有林の四季体験ツアー」を開催しました。

第1回目となる今回は、阿寒湖畔周辺の白湯山展望台や阿寒湖、ペンケトーなどを案内し、みなさんに「夏」の絶景の数々をカメラに収めていただきました。

秋・冬にも同ツアーを行い、みなさんの作品の中から選りすぐりを提供していただき、来年度の当署PR用カレンダー作成などに使わせていただく予定です。

参加者のみなさんからは「普段なかなか来られないところを見られてうれしい！」「次回もぜひ参加したい！」などの声が聞かれました。



美しい森林づくり協力宣言

【十勝西部署】6月28日（土）、とちプラザにおいて、「もっとエコなとかちづくり2008」が開催されました。

当日会場では、植樹活動などのパネル展示、カラマツでマイ箸づくり体験、環境を考えるシンポジウムなどが行われました。

また、「とち美しい森林づくり」が十勝地区森林組合振興会などによって宣言され、環境活動を実践している帯広市立森の里小学校の児童代表からは元気に「協力宣言」が行われました。

広報「北の森林 国有林」8月号 No.99

発行 北海道森林管理局

編集 保全調整課

〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70

I P 電話 050-3160-6274

電話 011-622-5231

F A X 011-622-5235

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

▽九月六日（土）
国際ブナ・フォーラム
黒松内町

▽九月六日（土）
札幌水源の森づくり
二〇〇八

札幌市大通公園

▽九月三日（水）
森林のコンサート
音楽ユニット「織音」
局ウツデザイナーホール

EVENT INFORMATION

行事・イベント情報